

『だれかの笑顔のために』

百聞は一見にしかず

前期の終業式で、この言葉をこどもたちに紹介しました。後期は、見学旅行や集団宿泊教室、修学旅行と現地に行って実際に見て学ぶ機会があるからです。『百聞は一見にしかず』とは、「人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見る方が確かであり、よくわかる。」という意味です。子どもたちにも、この意味を知らせ、実際に自分の目で見て、多くのことを学んできてほしいと話しました。

実は、私自身も実際に見て大好きになったものがあります。それは「山」です。それまでは、テレビや人づてに「山」のすばらしさを聞くことはありましたが、「なぜ、そんなきつい思いをして危険な山に登るのだろう？」というのが正直な思いでした。しかし、一度実際に山に登ってみて、これまで見たことのない大絶景に出会ったことで、自分の価値観が大きく変わったのです。それ以来、山が大好きになりました。それから、熊本の山はもちろんのこと、年に一度は長野県に出かけ、日本アルプスやその周辺の山に登るようになりました。今年も先月、北アルプスの乗鞍岳に登ってきました。

前期の終業式で、右のような私が撮影した山の風景写真をいくつか紹介したところ、子どもたちも先生方もとても興味を示してくださいました。(上：九重連山の大船山の紅葉、中：中央アルプスの千畳敷カール、下：北アルプスの燕岳と山小屋「燕山荘」)

子どもたちにも、これからたくさんの「本物」に出会い、好きなことをたくさん見つけてほしいと思っています。



山登りにもルールがある

山に登るとき、登山道を歩きます。登山道は基本的にそんなに広くありません。山に登っていると、下山してくる人とすれ違うことがよくあります。

さて、山の斜面に登っている人と下っている人、どちらが優先でしょうか？

登山道は基本的に**登り優先**です。

これは、「登りの人は体力的にきつくペースを変えたくない」、ということと、「下りの人のほうが相手に気づきやすく、すれ違う場所も探しやすい」ためです。山では、下っている人が登山道のはしの方によって、登りの人に道をゆずります。このとき、相手が安全に通れるように、できるだけ広く道を開けられるようにします。ゆずる時の基本は山側に出来るだけ身を寄せるようにします。谷側で待つと通り過ぎる相手が万が一つまずきぶつかった拍子に谷側へ落ちる(滑落する)危険があるからです。このように、山登りにもルールがあるのです。そして、思いやりの気持ちがとても大切なのです。